



日耳鼻医会

FAXニュース

平成26年12月12日発行 第221号

◎高齢者の難聴への取り組みを！

11月30日の平成26年度第1回医会長協議会第一部で参議院議員で当会顧問でもある武見敬三先生が「日本の医療の将来」と題して講演され、高齢者の難聴に対して耳鼻科医は取り組む必要があると次のように訴えた。

高齢化は日本に限らず全世界に広がってきており国際的な現象である。高齢者は感染症と非感染症という二重の負荷をおっており、高齢者の死亡原因は非感染性疾患によるものが多い。特に発展途上で著明で、これに対してUniversal Health Coverate:UHC(全ての人々が、負担可能なコストで予防を含む適切な医療にアクセス可能であることという考え)が必要である。

日本は国民皆保険のお陰で世界一の長寿国になったが、健康寿命と比べると約10年の差があり、これは介護状態や寝たきりになる期間が10年くらい有ることを意味する。この差を短くする取り組みが必要である。

国立長寿医療研究センターが2011年に65才以上の高齢者で聴力障害がある人は、1500万人に上るとの推計を示し、高齢者の2人に1人が難聴となる。日本では身体障害者に該当しないと補聴器の公的支援を受けられないが、例えばオーストラリアは殆どの補聴器が無償で難聴者に提供され、フランスでは耳鼻科医師が補聴器の必要性を判断し、また全ての難聴者に公的支援がある。高齢者の聴覚障害者がうつ病を発症する率は健聴の対照群と比べて約3倍高く、聴覚障害はうつ病や認知症などの精神活動にも大きく影響すると慶応大学の小川教授は述べている。また日耳鼻学会も平成9年に、介護保険による高齢者ケアシステムにおいて、聴覚障害への対応が適切に行われることを強く要望すると、厚生大臣宛に要望書を出している。

高齢者への補聴器の公的支援を行うにはそれだけの根拠が必要であり、是非とも耳鼻科の先生はそれを認識して、公的支援獲得へ取り組んで頂きたい。

講演の後、特に高齢者への補聴器について活発な質疑応答があった。

◎医会長協議会開催される 11月30日

平成26年度第1回医会長協議会が11月30日、ベルサル八重洲で15名の医会長が参加して開かれた。出席医会長の自己紹介と医会活動の現状報告の後、協議が行われた。報告事項は以下の通り。

1. 第39回臨床家フォーラム「中四国フォーラムin倉敷」
全国より185医療機関、家族職員含め259名申し込み。聴力検査講習38名、懇親会参加110名。
2. 第40回臨床家フォーラム案内
平成27年7月19日(日)・20日(月・祝)、「かごしまフォーラム2015」として鹿児島県市町村自治会館とレンブラントホテル鹿児島で開催予定。
3. 平成26年度公立学校レセプト調査中間報告
参加医療機関は714。前年と比べて1件当点数、1日当点数は前年と大きな変化はなく、1.69%増。1件あたりの日数は減少で耳鼻科も受診日数の少ない科になることは必至。東京都の集計でも大きな変化はなく、基本診療料の引き上げの影響ははっきりと出ていない。
4. 日本医師会・日本臨床分科医会代表者会議懇談会報告(詳細は次記事参照)
報告事項の後、日耳鼻医会への要望などの意見交換があり、盛会裡に終了した。(詳細は会誌「かがみ」掲載予定)

◎専門医制度について日本医師会館で協議

11月25日(火)、日本医師会・日本臨床分科医会代表者会議懇談会が日本医師会館で、日本医師会横倉会長はじめ日本医師会役員、そして日本臨床分科医会代表者会議に属する日本眼科医会、日本小児科医会など12の医会団体が参加して開催された。日耳鼻医会は伊東理事長、鈴木副理事長、中澤副理事長が出席した。

日本医師会横倉会長挨拶のあと、小森日本医師会常任理事が日本医師会の考えとして総合専門医について、「総合診療専門医は、主として従来的一般内科を中核として、小児科、眼科、耳鼻科などの周辺領域について広い領域にわたって基本的レベルの診療を目指す医師を指し、幅広い視野で患者を診る必要があるケースとして、人口減少地域で、医師一人で多くの科の診察を行わなければならない地域、病院などで特定の臓器や疾患に限定することなく、目標は、国民にとって安心、安全な医療提供体制の構築」と説明。併せて行き過ぎた専門医の制度化は良くないのではとも述べ、深い専門性と広い総合診療能力はすべての医師が有すべき要件であると説明した後、参加医会から色々の意見要望が出た。日耳鼻医会は耳鼻咽喉科科専門医の現状とその特殊性を伝え、このことに配慮して頂きたいと意見を述べた。

■修復たんぱく質で声帯治療 京大耳鼻科

声帯癒痕の患者の患部に、特定の蛋白質を注射して組織を柔らかくし修復するための治療を始めた京大の平野滋講師(耳鼻咽喉科)のチームが11月18日発表した。先端医療振興財団(神戸市)と共同で実施。平野講師は「安全性や有効性を確認し、5年後をめどに治療薬を開発したい」と話した。声帯癒痕の患者数は推定で約1万2千人。日常的に声を出す歌手や教師、役者に多い。チームは肝細胞の増殖や血管の新生に関わり、組織の再生や保護作用もある人のタンパク質「肝細胞増殖因子(HGF)」に注目。これを患者の声帯に微量注射し、声帯が柔らかくなるかなどを約半年間見る計画で、17日に40代の男性患者に実施した。2016年8月までに、計18人を行う予定。声帯癒痕のイヌに投与した研究では改善が確認できたという。(共同通信社)

■難聴者向けスピーカー販売 大和ハウス

大和ハウス工業は12月2日、難聴者向け音響メーカー「ユニバーサル・サウンドデザイン(東京)」と提携し、難聴者の聞き取りを手助けする装置「COMUOON(コムーン)」を販売すると発表した。高性能の卓上マイクとスピーカーがセットで、独自の技術で音の明瞭さを高めた。補聴器を着用しなくても相手の声をスピーカーで聞き取りやすくする。病院の診察現場などで導入実績があり、個人の購入も増えているという。価格は21万600円。(共同通信社)

◆訃報◆日耳鼻医会元理事設楽敏明先生(群馬県)が12月9日逝去されました。83才。謹んでご冥福をお祈り致します。

astellas
経口用セフェム系製剤
日本薬局方 セフジニルカプセル、セフジニル細粒
CFDN セフゾン® 細粒小児用10%
50mg
100mg
Cefzon®
■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。
製造販売 アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3-17-1
【資料請求先】本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区区橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228